

平成28年度 事務事業評価シート

事務事業名	資源回収				所管	環境清掃部 清掃リサイクル課				
	行政計画	事業NO.	116	計画事業名	資源回収					
事務事業の概要	長期総合計画体系	[基本目標] II-2. うるおいのある生活環境づくり [小 柱] (2)循環型社会づくり [施策] ②資源循環の促進				事業の開始・終了年度				
	根拠法令等	法令(義務)	[法令等名]	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、東京都台東区廃棄物の処理及び再利用に関する条例				[事業開始]	平成 4 年度	
	事業対象	一般区民・一部の小規模事業所							[終了予定]	- 年度
	事業目的	ごみの減量・リサイクルの推進を図るために、資源の分別回収を行い、再資源化を行う。								
	事業内容	資源の回収場所を設置し、回収した資源の再資源化を行う。 【集積所回収】古紙類(新聞・雑誌類・段ボール・紙パック)、びん、缶、ペットボトル、食品発泡トレイ・食品発泡カップ 【拠点回収】紙パック、乾電池、廃食油、古布、ビデオテープ類、蛍光灯、小型家電 【教育回収】缶、紙パック								
	委託の有無	全部委託	委託内容		資源の回収場所に排出された資源を回収し、資源化施設で再資源化処理等を行い、再商品化事業者等へ引き渡す。					
	補助金の有無	なし								
	事務事業の実績	種 別	指標の名称	(単位)	目標値 (29年度)	25年度	26年度	27年度		
		活動指標	行政資源回収品目	品目	15	15	15	15		
			行政資源回収量	t	7,888	6,250	6,291	6,440		
成果指標		資源回収率【資源回収量/(資源回収量+区収集ごみ量)】	%	24.0	20.1	20.6	20.8			
		行政回収ごみ削減率(21年度比)	%	-14.3	-5.8	-8.0	-9.3			
決算額		(単位：千円)			440,127	446,878	444,880			
事務事業コスト		人にかかるコスト(人件費など)			14,486	16,153	18,045			
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			437,293	446,857	444,881			
		(単位：千円) その他のコスト(扶助費・補助費など)			2,835	22	0			
		総経費			454,614	463,032	462,926			
財源項目	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			1,877	2,071	2,101				
	(単位：千円) その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			45,036	50,911	44,398				
	一般財源(区負担額)			407,701	410,050	416,427				
前回評価から改善した事項	戸別収集箇所や資源集積所において排出指導などの取り組みを行った結果、リサイクル意識が高まり、着実にごみ量が減少し、資源回収量が増加した。									
評価の視点	評価	評価の理由								
	必要性	3	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、一般廃棄物の減量及び適正処理は区の責務であり、区が主体となり実施していかなければならない。このため、再生可能な資源を区民の利便性を考慮した様々な回収形態で、効果的かつ継続的に回収し、安定的に処理する必要がある。							
	効率性	3	店頭ペットボトル回収は、利便性の高い集積所等の回収量が増加したことから、平成26年度末に事業を終了した。また、マンションペットボトル回収は、平成26年度より回収車両を変更し、売払いに入札を取り入れるなど、実情に応じた事業の見直しを行った。							
	手段の適切性	3	予定回収量や契約単価の動向の把握に努め、更なる執行率の向上を図る必要がある。また、事業を取り巻く環境の変化を鑑み、費用対効果を意識した事業手法を検討していく。							
	目的達成度	3	ごみの戸別収集によるごみ量の減少と資源(主に古紙類)回収量の増加により資源回収率は増加したが、目標達成に向けてさらなる取り組みの強化を図っていく。							
[評価の理由](区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了			
品目ごとに回収や資源化の方法が異なり、経費が増加する傾向にある。そのため、費用対効果に留意して事業を実施していく。また、集団回収と連携し、循環型社会形成に資する資源回収を進めていく。						維持				